坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校
学　校　だ　よ　り
令和７年度　２月号
発行責任者：岩下修一

～やってみよう 頑張ってみよう みんなが笑顔の坂元小～

「 オリンピックで日本人大活躍！！ 」

坂元小学校　校長　岩下　修一

現在イタリアで開催されているミラノ・コルティナ冬季オリンピックでは，日本人選手団がめざましい活躍を見せています。フィギュアスケートの三浦・木原ペア（通称：りくりゅう）がフリーで世界歴代最高得点を更新して獲得した逆転金メダルや，スノーボード女子ビッグエアでの村瀬心椛（ここも）選手の金メダルなど，諦めずに挑戦し続ける姿は，私たちに大きな感動と勇気を与えてくれます。

ところで，昔，なかなか日本人はメダルを取れませんでした。いつから，どうしてこんなに勝てるようになったのでしょうか，調べてみました。

（ 昔 ）選手の個人の努力（根性）に頼る部分が大きかった。
（現在）2000年代以降，国を挙げた戦略的な支援と科学的なアプローチを行っている。以下三点。

① **科学的なトレーニングと「チーム」による支援**
　アスリート一人に対し，監督だけでなく，**映像分析，戦略分析，栄養，心理（メンタル），医学**などの各分野の専門家が「チーム」を組んで支える体制が定着している。

② **専用施設の整備（味の素ナショナルトレーニングセンターなど）**
　2001年に国立スポーツ科学センター（JISS），2008年にナショナルトレーニングセンター（NTC）が開設され，これにより，競技の枠を超えてトップ選手が一年中，質の高い練習と最新の医科学サポートを同じ場所で受けられるようになった。

③ **「選択と集中」による強化費の配分**
　スポーツ庁などの主導により，メダル獲得の可能性が高い競技へ重点的に強化費を配分する「選択と集中」が行われるようになった。これにより，有望な競技の選手が国際大会への遠征や合宿を十分に行える環境が整った。

ところで，こうしたトップアスリートたちの姿から，子どもたちに学んでほしいことが二つあります。一つ目は「**目標に向かって努力を続けること**」です。メダルを手にした選手たちも，最初からすべてがうまくいったわけではありません。けがや挫折を乗り越え，日々の練習を積み重ねてきた結果が，あの輝く笑顔につながっています。

二つ目は「**仲間と支え合うこと**」です。ペア競技やチーム競技はもちろん，個人競技であっても，コーチや家族，そして競い合うライバルがいたからこそ，最高のパフォーマンスが生まれています。

2月・3月は，今の学年のまとめの大事な時期です。6年生は卒業まであとわずか，1～5年生も進級に向けた大切な一ヶ月となります。オリンピック選手のように，自分なりの「金メダル（目標）」を掲げ，最後まで粘り強く取り組んでほしいと願っています。

保護者の皆様，地域の皆様におかれましては，今後とも子どもたちの成長を温かく見守り，励ましていただければ幸いです。

来年度の日課表の変更について

文部科学省や県教委では，教員の長時間労働問題や人材不足に対応するため，教職員の給与等に関する法令改正に伴う「働き方改革」を進めており，各学校で，一層業務改善推進するよう指導を受けています。そこで，本校は，現在月曜日に実施している給食後の昼休み時間カットを，来年度から金曜日も実施する方針です。実施すれば，金曜日，子どもたちは現在より40分早く下校することになります。現在，児童クラブ等，関係機関との連携を進めているところです。保護者の皆様方のご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

＊裏面もあります。